慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	トレルチ氏著 流行に関する国民経済的観察
Sub Title	
Author	阿部, 秀助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.6 (1914. 7) ,p.740(114)-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140701-0114

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

簡略に知らんとする徒にとりて好都合の參考書 保険發達の歴史、之れが英國法案との比較等を の性格及社會的見地、 獨遜に於ける國家社會主義の性質及發達、 を齎らせしものなりとなせり、 を一般に向上せしめんとする努力は單に獨逸の たる可し。 みならず、 自餘の歐洲諸國に於ても著しき效果 (阿部生) 獨逸に於ける勞働 要するに本書は 比公

流行に闘する國民經濟的觀察

(W. Troeltsch, Volkswirtschaftliche Betrachtungen über die Mode)

於て「流行」問題が屢々國民經濟學研究の對象た らんとする點にありと信ず、而して現時獨逸に を以て足りとせず、 る品物を廣く販賣して、其「數量」的發達を促す 獨逸工業界最近の傾向としては、單に低康な 更に進んで「質」的發達を計

> Wirken)と共に此方面の研究者にとりて好材料 Neuburger, たる可し。 となり、劈働者は從つて其業務を求むるを得べ 此方面の經營にして其宜しきを得ば、需要は大 現象として、 のは現時の消費、生産の諸方面に亙りて、之れ の影響等を論じ、其結論として「流行」なるも が最中心をなするのにして經濟生活の重要なる と流行、 に過ぎずと雖、 其者の意義を明にし、 しと、要するに本書は僅かに六十六頁の小冊子 ものにして、 日「マーブルグ」大學總長就職の演説を公にせし らざるか、 るに至りしてとは此間の消息を語れるものにあ 生產上、 (阿部生) 本著は著者が千九百十二年十月十三 Die Mode, Wesen, 先づ社會的慾望の産物たる「流行」 彼は一種の 偷ほ「ノイブルガー」の著(○. 更に需要と流行、 Januskopf なり、 物價上に於ける流行 Entstehen u 小寶商

Supply on Prices and Profits The Influence of the Gold

By Sir David Barbour

中版一〇四頁東京賣價金一圓七十五錢千九百十三年倫敦マ ク ミ ラ ン 發 行

dard of Value (1912)を著はし貨幣數量説を論據 説明に重きを置き印度幣制と該説との關係に論 として貨幣購買力高下の理を説述して印度幣制 通せる貨幣論の大家なり。氏は曩に 及するを避けたり。 に論及せしが、 ふを得べし。(四七頁) 本書論旨の中心點は蓋し左の一節に在りと謂 本書の著者バーバー氏は印度の貨幣制度に精 「貨幣數量説は左の如く言表はすを得。 The Standard of Value 記述を亦簡明なりと謂ふを得るが如し。 本書に於ては貨幣數量説其物の 概して之を論ずれば、 よりを論旨明快にし The Stan-本書

> 可とす。」 なし。 は未だ一顧を値ひする反對論を見たること ・施近此學説を非難する者を生じたれど、予 平準は貨幣の數量に比例す。 他の條件にして變動せざる限りは、 此學説に關する論争は打切とするを 物價

致せるも、 Purchasing Power of Money, 1911) の解説と一 體に於てフィシヤー氏(Irving フィシャー氏とは異れる方法を採れり。 信用と物價との關係の説明に於てバーバー氏は 此貨幣敷量説に對するバーバ 1氏の用ねたる方程式は左の如し。(五十六 其數理的解説に用ひたる方程式並に ー氏の説明は大 Fisher :The

P≡Q× श्रीम

は物價平準、Qは貨幣の數量、Eは貨幣の Wは貨物取引高を表示す。